



高木さんのベニアズマ



ツルを刈った後は、1株1株を手で引っっこ抜き、1本1本をばらします。ずっと腰を曲げながらの作業は慣れない人ではすぐに腰が痛くなりますが、ベテランの高木さんは何ともありません。



初夏の雨不足の影響か、今年は大きな芋もあれば小さい芋もあり株によって揃いが違うこともあり、選別しながらの出荷となっています。

・ベニアズマはメンバーの持ち回りで出荷していきます。

おかげさま農場は「食は命」をテーマにしています。化学合成農薬や化学肥料を使わないことを基本としています。

【産地情報】

◎小松菜、チンゲン菜は10月1日から出荷開始です。また、大根は10月10日頃から少しずつ出荷開始の予定です。

★土の力を活かしながら育てた旬の味

朝晩がめっきり涼しくなり秋を感じる季節になりました。そして秋の代表的な作物の1つ、さつまいもの出荷も始まっています。そのトップバッターはこの道46年のベテラン農家の高木さんです。

高木さんは小松菜、ホウレン草などの葉物部会の黒柱の1人ですが、秋の今の時期はさつまいもも作って出荷しています。ご存じの通り、おかげさま農場周辺はさつまいもの大産地で、特に高木家のある地域は「あそこは土質がいいぞ」と周辺の農家さんが言うほど土質が良く、さつまいも農家さんも多くいます。そんな地域で高木さんは無農薬で何十年もさつまいもを作ってきました。

無農薬で作るため、何年も同じ場所で作ると病害虫が発生してきます。そのため、2年作ったら他の畑でやることを基本に連作をしません。また、肥料分が多いと葉っぱやツルが伸びて芋自体が大きくならないため、過去に何をやったかをきちんと記録し、それを元に施肥設計をします。今の畑は一昨年はキャベツを作った所で肥料成分が残っていることを考え、昨年は堆肥も入れず、もみ殻を炭にしたものと芋の味を良くすると言われる天然有機質リン酸肥料だけでさつまいもを育てました。今年も同様の施肥で、「肥料や堆肥を入れればいいってもんじゃないんだよ」と、何十年も使ってきたノートと畑の土の持つ力を考えながら育ててきました。長年の経験と手間と良質な土の力で育てたさつまいも、ご賞味下さいね。